

消費者から見た
情報展 2008
得する情報すばやくキャッチ!

2008年7月2日(水)
3日(木)

都地消連が保存していた欠陥商品を、情報展にコーナーを設けて見ていただきました。温故知新

玩具 家庭での料理時間が少なくなつて、まな板の無い家庭があると騒がれたのはいつだったか、今ではお釜の無い家庭も稀ではないと聞く。



料理はうっかりすれば、手も切るし焼けどもする。玩具といえどホットケーキが焼けるので、当然、火傷もしました。

7月20日朝日新聞によると、日本玩具協会の07年度統計からとして、クッキング玩具人気もあり女兒玩具市場は、前年比13%増の443億円。アイス、サンドイッチ、おにぎり、ふとまき等をおもちゃで料理「クッキング玩具」に新商品が次々発売されて、手軽に親子で楽しむ時代という。

料理は、お手伝いをしつつ覚える時代では無く専用のおもちゃで遊ぶ時代になっている。毎日の食事は、外部に依存することがおおくなった。

また同協会によると、07年度の玩具販売額は6700億円。前年比3%増で、4年ぶりに前年度を上回ったとある。

<火傷をするレンジセット>

字けし 学用品を玩具化するとのことで、においの着いた消しゴムや食べ物と間違いかねない消しゴムが槍玉に上がったのは1970年代。今では「消す目的以外の要素を加えた消しゴム」の売れ行きが好調とのこと。NYの近代美術館のミュージアムストアでも販売され、国内でもユニークな消しゴムを集めたコーナーで人気商品となっているそうだ。「子どもに『勉強してね』という気持ちを込めてプレゼントする親が多い」とは売り場担当の分析。



<子供用化粧品はどうなのか>



<転びすぎるコロちゃん>

子どもの安全

蛍光染料

赤ちゃんに蛍光染料はなぜ使ってはいけないの？

せっかく乳幼児の製品に蛍光染料が使われなくなったのに、合成洗剤には、蛍光染料の入ったものが大半です。お母さん！ 洗剤を選んでますか。



<乳幼児製品に蛍光染料は×>

衣類

首回りがかっちりして、着脱がむづかしいシャツは親子で難儀します。

かわいいレースのついた赤ちゃんのビキニは単に親の満足。赤ちゃんは柔肌が紫外線にさらされ、大迷惑。赤ちゃんはペット並か？ この当時チャンネルの犬用首輪が話題になりました。最近のペットにはお正月用の振袖羽織袴からシーズン・行事に合わせての衣装は当りまえて、子どもなみの扱いを受けています。

衣服の基本的要件は今も昔も同じと考えるのは、都地消連の会員世代のみか。安全面もあやしい。消費者力の後退としか思えないけれど・・・

ジーパンの破れは、ファッション。(随分の歴史になるが、お婆さんは未だに慣れることができない。汚らしくて、不快になる)

端が断ちっぱなしも、ファッション。 下着が上着になるのも、ファッション。

ぴちぴちで、おなか回りが丸見えの街着もファッション。

ガーゼのような洗濯に耐えない生地もファッション。

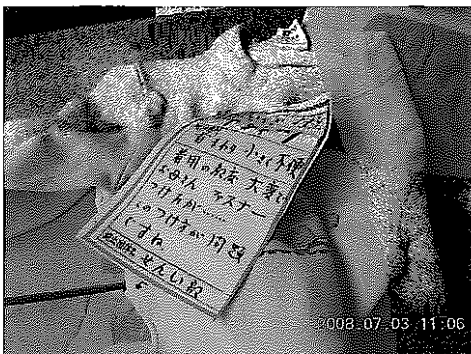
ファッション優先に振り回され、その年限りの衣類の消費をどう考えるのか。

昔のクレームはファッションにカバーされている。

都「商品等の安全問題に関する協議会」が06年度、子ども用衣類の安全確保について検討し、アンケートした事例報告中に「ひやりハット」まで含めると、回答者(1163人)の7.7%が何らかの事故を経験しているという。

「靴下やタイツを履いてフローリングの床で滑って転んだ」68.9%

「上着のフードが引っ掛かって首が締まったり、転倒したりした」20.9%



<首が通りにくい幼児用シャツ>

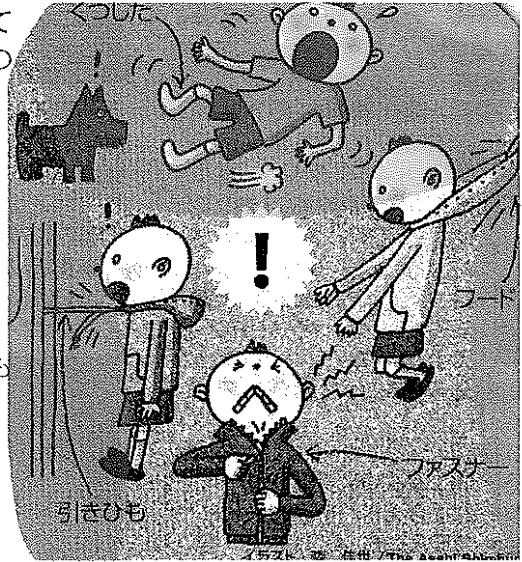


<赤ちゃんにもビキニ>

約半数が衣類などに問題があったと考えているが、どこにも苦情を申し出ていないとのこと。

最近流行の、穴あきサンダルはエレベーターに挟まれやすいだけでなく、飾りにつけるアクセサリーの留め金で、爪をはがしたり、擦り傷を作ったりしている。わざわざ取り付けるアクセサリーをどこに付けるか。見た目ばかりに気を使い安全には頓着しない。平和ボケといわれても仕方ないか。

安全は第一に製品をつくる企業の責任であり、行政の監督責任もあろうが、ここまで来ると、商品を選ぶ消費者にも、使用責任が問われ、安易な自己責任論を招く。



朝日新聞 080611 より

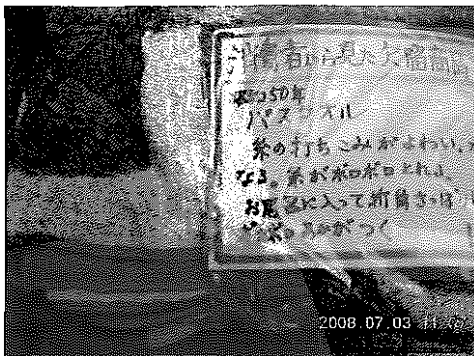
滑って転ぶバスマット

風呂上りに脚拭きマットに不用意に乗ると、滑って転ぶという苦情品は、脚拭きマットが出始めの頃。今では滑り止めが施されたものが当たり前になっている。

滑り止めのないカーペットや玄関マットには、滑り止めを間にいれることも、常識になってきているが、フローリングの床が増えた住宅事情では、敷き物でなく靴下ばきで滑って転ぶ事故は多いらしい。散らかった新聞や折込チラシに乗っても転んだりする。

風呂上りに使ったバスタオルは打込が甘く、拭くにつれて、パイルが抜けて体に着く。因幡の白兔ではないから、よろこべない。

テープレコーダーのつまみは、ON-OFFでなく、その間に遊びがあって、ご機嫌をとりつつ押さないと動かないのだという。長年使い込んだ自分だけの専用の使い勝手があって、愛用品ということではない。日本が誇る電子機器分野にもこんなクレームがあったという貴重品。



<ボロボロと糸が着くバスタオル>



<中途半端に押さないと回らない
テープレコーダー>

つい買ってしまう調理器具ですが・・・

取っ手が取れたり、焼けてしまうのは、鍋が壊れるだけでなく、使っている人間も、火傷をしかねません。大変危険です。

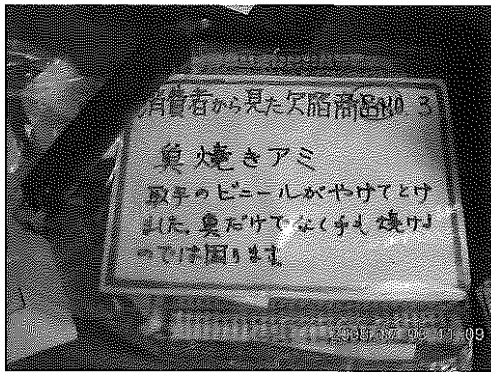
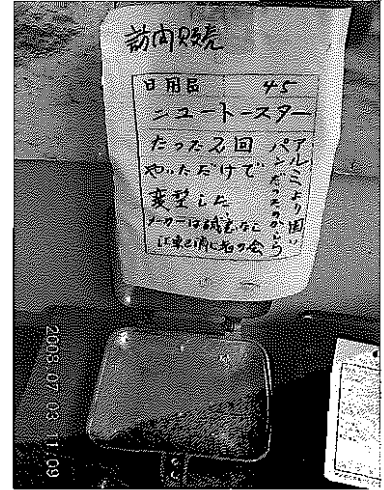
取っ手の取付強度は、鍋製品の重要な要件でした。今風鍋は、取っ手は、プロの料理人のごとく、必要の都度取り付けて使うので、鍋に取っ手はついていません。ところが、その万能取っ手にリコールを出されていました。鍋を取りこぼす恐れがあったのです。

身に危険は及ばないけれど、買って間なしに使えなくなるというのは、腹立たしいもの。

商品設計や材質・技術が単に劣るだけの **<2回で変形したニュートースター>** 商品を買ってしまったくやしさは、訪問販売や通信販売での場合、余計だよねとの感想を聞きました。

メッキのはげた魔法瓶 今はステンレスです。

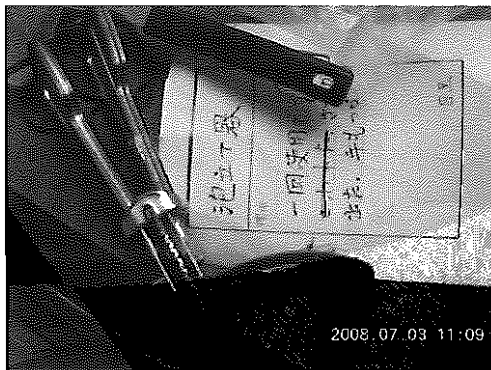
鍋は「焦げ付かない」が売りの商品が多数出回っています。(製品の安全性に不安を持ちつつ、便利さに身をゆだねる主婦が多いらしいが)



<取っ手がとけた魚焼き網>



<取っ手がとれた牛乳わかし>



<1回使用で錆がでた泡だて器>



<焦げ付きがひどい卵焼き器>